

# 丹沢山地におけるササ 3 種の 2016 年の開花記録

永田幸志\*・田村 淳\*\*

## I はじめに

丹沢山地では 24 のタケ科植物（以下、タケ・ササ類）が確認されている（勝山ら 2007）。タケ・ササ類は、数十年～百数十年に一度の周期で開花し、また、多個体が同調して一斉開花枯死することが知られている（蒔田ら 2010）。丹沢山地の暖温帯から冷温帯に生育する主なタケ・ササ類は 3 種あり、アズマネザサ (*Pleioblastus chino* (Franch. & Sav.) Makino var. *chino*)、スズタケ (*Sasamorpha borealis* (Hack.) Nakai var. *borealis*) とミヤマクマザサ (*Sasa hayatae* Makino) である（勝山ら 2007）。神奈川県は、「ニホンジカ管理計画」におけるモニタリングの一環で、シカによる植生への累積的利用圧調査の際に丹沢山地の主要な尾根の矮性化したササの分布情報を 5 年おきに把握している（神奈川県自然環境保全センター 未発表資料）。また、2013 年、2014 年に丹沢山地の各地でスズタケの一斉開花が確認され、2016 年もスズタケの開花が確認された。本報告は、既報（永田・田村 2014, 2015）のササの一斉開花情報に 2016 年の枯死情報を加えて、タケ・ササ類の開花・枯死情報として記録したものである。

## II 材料と方法

開花情報を収集した種は、上記 3 種とした。開花情報を広く収集するために、次の県内各機関の職員に図 1 の資料を配布して開花情報（種名、確認日時、確認場所、開花の規模）の提供を依頼した。対象とした機関は、神奈川県自然環境保全センター、神奈川県各地域県政総合センターの森林管理部署、神奈川県立ビジターセンター、林野庁関東森林管理局東

京神奈川森林管理署であり、神奈川県自然公園指導員へも情報提供を依頼した。

## III 結果および考察

調査期間中に提供された開花情報はスズタケ 7 件、ミヤマクマザサ 2 件、アズマネザサ 0 件であった。開花の確認された場所を図 2 に示した。いずれの情報も、開花の確認されたおおまかな範囲または開花の確認された歩行ルートが情報提供されたため、図示した線上で部分的にササの開花が確認されたという状況である。

### 丹沢山地におけるササ開花・枯死に関する情報提供票

※以下の内容が記載されていれば、どのような形での情報提供でも結構です。

情報提供者（所属・氏名）	
開花・枯死 確認年月日	
開花・枯死の別 (○で囲んでください)	開花 ・ 枯死
開花・枯死しているササの種類 (○で囲んでください)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スズタケ</li> <li>・ミヤマクマザサ</li> <li>・アズマネザサ</li> <li>・その他 (名称 )</li> <li>・不明</li> </ul> ※種不明の場合は大体の高さ (1m 程度等) を記載してください。
場所 ※地図を添付してください。	
開花・枯死の規模等 ※10m×10m、登山道沿い 1km 等、 ○○山～○○峠まで等。範囲が不明な場合は、小面積、○○山周辺等でも結構です。	

図 1 ササ開花・枯死に関する情報提供票

\* 神奈川県自然環境保全センター研究企画部自然再生企画課（〒 243-0121 神奈川県厚木市七沢 657）

（現所属：神奈川県西地域県政総合センター森林部森林保全課）

\*\* 神奈川県自然環境保全センター研究企画部研究連携課（〒 243-0121 神奈川県厚木市七沢 657）

図2から、丹沢山周辺等の一部でミヤマクマザサが開花し、西丹沢の菰釣山周辺等の一部でズスタケが開花したことがわかる。2013年、2014年の開花記録(図3)と比較すると、開花地域の範囲は狭く、局所的な開花であったと考えられる。

また、調査期間中に提供されたササの枯死情報はズスタケ26件、ミヤマクマザサ1件、アズマネザサ4件であった。枯れた稈(以下、枯死稈)の確認された場所を図4に示した。開花情報同様、いずれの情報も、図示した線上で部分的にササの枯死稈が確認されたという状況であり、枯死の時期等は不明である。

2013年、2014年の開花後の枯死であるかは不明だが、一斉開花後に枯死するササの生態(蒔田ら2010)から、大室山周辺や、檜洞丸周辺等、2013年、2014年に開花の確認された場所では、開花個体の枯死が確認されたものと推察される。

2017年現在において、檜洞丸西側のつつじ新道ではササ枯死後の林床にササの実生が発生している

ので(田村観察)、他の場所も含めてササの回復過程や他の植物種との競合関係、それらに及ぼすニホンジカの影響についてモニタリングすることで、森林の更新についての新たな知見が得られるだろう。

#### IV 謝辞

本報告は、丹沢山地で活動されている多数の機関・多数の方にご提供をいただいた情報をまとめたものである。ここに記して感謝の意を表する。

#### V 引用文献

- 勝山輝男・田村淳・田中徳久(2007) 維管束植物。1-44. 丹沢大山総合調査学術報告書 丹沢大山動植物目録. 丹沢大山総合調査団編, 472pp, (財)平岡環境科学研究所, 相模原.
- 蒔田明史・鈴木準一郎・陶山佳久(2010) Bamboo - その不思議な生活史. 日本生態学会誌 60: 45-



図2 2016年にササの開花が確認された場所

※太線上の一部で開花が確認された。

※図中の○内のみミヤマクマザサの開花。その他はズスタケの開花。





図3 2013年、2014年にササの開花が確認された場所（永田・田村 2014,2015 から作成）  
 ※太線上の一部でササの開花が確認された

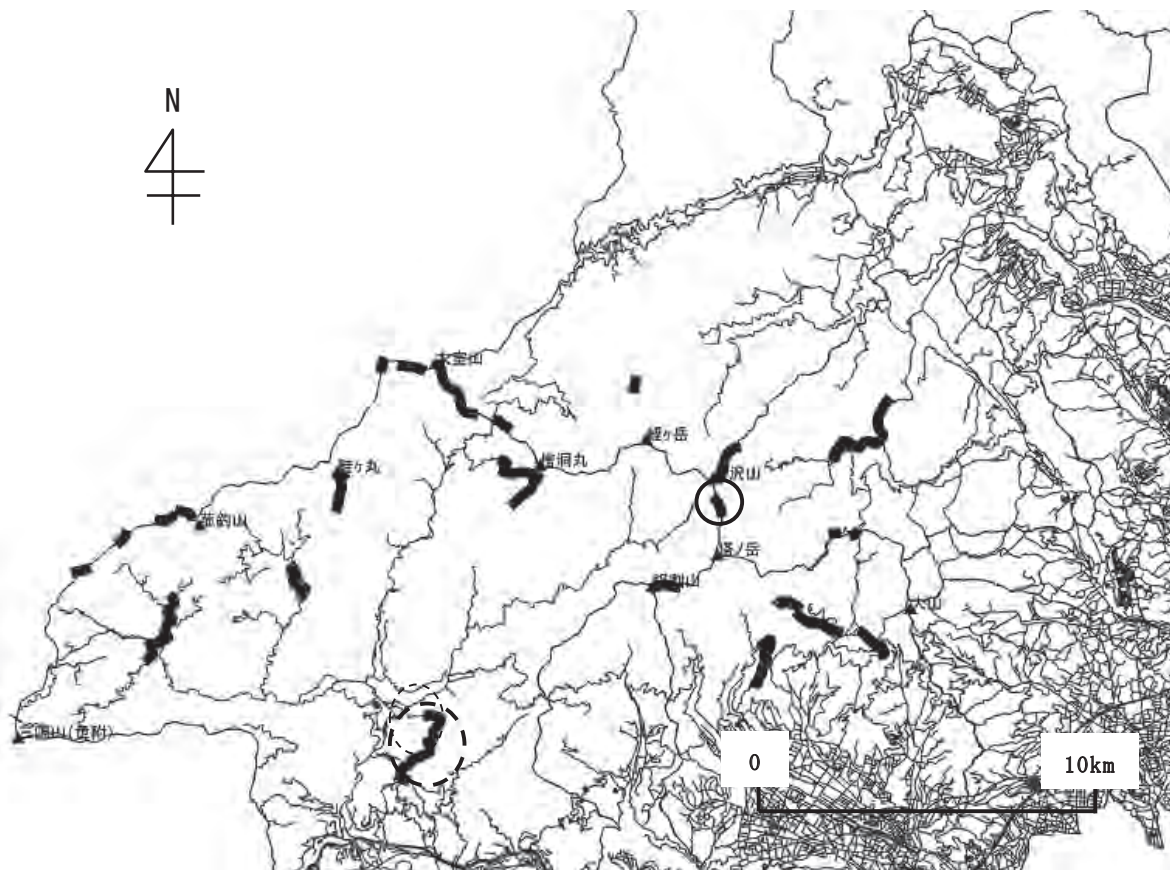


図4 2016年にササの枯死稈が確認された場所  
 ※太線上の一部で枯死稈が確認された。  
 ※図中の○内でミヤマクマザサの枯死稈、⊖内でアズマネザサとスズタケの枯死稈、  
 その他はスズタケの枯死稈が確認された。

50.

村上雄秀・鈴木伸一・林寿則・矢ヶ崎朋寿 (2007)  
 丹沢大山の植生-シカ影響下の植物群落-17-  
 87. 丹沢大山総合調査学術報告書. 丹沢大山総合調査団編, 794pp, (財) 平岡環境科学研究所, 相模原

永田幸志・田村淳 (2014) 丹沢山地におけるササ3種の2013年の開花記録. 神奈川県自然環境保全センター報告 12:43-45

永田幸志・田村淳 (2015) 丹沢山地におけるササ3種の2014年の開花記録. 神奈川県自然環境保全センター報告 12:65-67



写真1 2013年に檜洞丸周辺(つつじ新道)で開花したスズタケ



写真2 檜洞丸周辺(つつじ新道)のスズタケの状況(2013年5月・開花時)



写真3 檜洞丸周辺(つつじ新道)のスズタケの状況(2015年8月)



写真4 檜洞丸周辺(つつじ新道)のスズタケの状況(2017年5月)